

# 道

2019年8月1日  
(第46号)



小田川

気が小さい子どもだった。小学校6年生の時、担任の先生から作文の宿題が出された。作文は大の苦手、後回しにして遊び呆けていた。でも、提出日は迫ってくる。書こうとしても書けない。文の内容が浮かんでこない。真っ白。焦る。オロオロあたふたしていたのだろうと思う。見かねた母が助け船を出す。母の下書きをもとに清書した。父が亡くなった後の家の様子を描いたものだ。▼その作文が、なんと、学校代表作品のひとつに選ばれ、地区のコンクールで賞を得た。その賞状を受け取る時、僕はずっと下を向いていた。消えてしまったかった。汚い奴だと見透かされていたように思えた。気弱な少年に、母に書いてもらった作文だと言えるわけもなく。今更遅いけど、「橋屋先生、ごめんなさい」。やっとと言えた。▼作文嫌いの僕が、今、こうして毎月〈道〉通信を出している。何という皮肉。もっとも、締め切り日がきても、ぐずぐず書けずにいるのは子どもの頃と変わらない。▼そういえば、あの母の下書きには、急死した父への強い気持ちが入められていたのだらうなと思えてくる。そんな肝心なことを露ほども感じる事ができない。その場逃れに終始して、後でさんざん悔やむ。そう。どうも僕は、あの頃からちっとも成長していない。

〒710-1301

岡山県倉敷市真備町箭田 5188

TEL. 090-5366-1497

MAIL michi-care@outlook.jp

H.P. <https://michi-care.jimdo.com/>

林 道 也



遠田  
椋の木